

K

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信

在宅療養支援
楓の風

KAEDE TIMES 2026

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤

ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介します、ニュースレターをはじめました！



Case 9

認知症の方への支援では、医療や介護の必要性があっても、支援を受け入れていただくまでに時間がかかることがあります。今回ご紹介するのは、「**手伝いは不要**」と**支援を拒否されていた方**に対し、チームでご本人の人生や価値観を理解しながら関わり方を工夫することで、関係性を築くことができた事例です。訪問看護が“医療を生活の中に置き直す”支援の力を示したケースとなりました。

ケース

認知症の周辺症状により支援を拒否。「私は元気」と語る90歳女性。

ご主人とお二人で暮らしておられるHさん。生活機能の低下が見られ、**処方薬を捨ててしまったり、入浴を1年以上できていない**などの課題がありました。

訪問看護が開始となり、支援の形を模索しましたが...

「私は元気。手伝いは必要ないよ。」

というお言葉をいただくのみ。
しかし明らかに、支援が必要な環境でした。

拒否の背景にあったものとは？

「できないことがあるから支援が必要」という説明は、届きませんでした。

しかし、訪問を重ねる中で見えてきたのはHさんの人生。

- 育児や家事を一手に担い続けてきた人生
- 「弱音は吐かない」という信念 …人となりを理解するにつれて、スタッフは気づきました。

「**困っていても助けてほしいとは言えず、家族の中心でありたい**」という思いの現れなのでは？

そこから私たちは、Hさんへのアプローチを変えることにしました。

内服が必要な理由を、「飲まなければいけないから」ではなく、「**ご主人が安心するため**」と説明。

また、スタッフからHさんに「料理を教えてください！」と声をかけ、支援をされる側という関係性ではなく、**人生の先輩として接することで、徐々に心を開いてくださるよう**になりました。

その後の経過と気づき

入浴の拒否はまだ続いているものの、**内服が継続できるよう**になったり、

足浴や清拭・爪切りなど、以前は拒否されていたことでも**介入できるよう**になりました。

私たち訪問看護の役割は、医療面での管理をすることだけではありません。

その人の人生や価値観の中に、医療を置き直すこと。

それが、在宅で「**その人らしさ**」を守るという楓の風の訪問看護だと考えています。

